

名前：

インターネットという新しいメディアが登場してから10年以上たつが、社会では新聞・雑誌と要論も根強い。現に、新聞の発行部数も大きく下がるようなことはないが、た。しかし、私は新聞・雑誌は不必要であると考えている。それには3つの理由がある。

まず、紙媒体を使わなければ、紙そのものや、その配達、その売り場とい、た。新聞・雑誌にのせられていた情報そのものとは本質的に関係のない、中間コストを削減できるという点があげられる。インターネットは電子メディアであり、情報はデジタル化信号としてパソコン画面の上に表示される。印刷し、それを配達する必要はないのだ。要するに、新聞を読むためにこれまで支払っていた、さまざまな中間コストは数くなり、安価に情報を得ることが出来る。また、紙を使わないという事は環境の時代である21世紀に、こ、こ極めて大きな意味を持つだろう。

次に、情報の速時利が上げられる。現在で

も、新聞の一部はネット配信されている。安価前首相の特色を、新聞の号外ではなくネットで見、た人も多いのではないだろうか。全ての人が翌朝を待たずとも最新のニュースを手に入れ、こ、こに慣れれば、社会はよりスピーディーに動くようになるだろう。

最後に、情報の集約利が挙げられる。ネット上に公開されている情報は、端末さえあれば、全ての人が全ての場所で得ることが出来る。一般の人が専門雑誌に触れようとする場合、大学図書館まで足を運ばなくてはならなかったが、全ての雑誌・新聞がデータベース化され、ネット上に公開されれば、大学に同じにめらえていた専門家は、広く一般に行きわたる可能性を知ることになる。これは社会の進歩にと、こ大まかにより、たを考えた。

たしかに、一般に言われているように、パソコン画面で表示できる情報は限られており、新聞のようを、たを、読みに向かい。しかし、今後の画面表示形式が、検索性の向上に

よ、て解決される問題を。う。

インターネットのより一層の普及によって、  
社会がよりよい方向に向かうだろうと考える。